



1月8日 贈り続けて早30年 伝統の「みかん式」

武蔵町の佐藤秀一さんは、町内小中学校の3学期始業式に合わせ児童生徒にみかんを贈り続けており、今年で30年目を迎えました。武蔵中学校で行われた贈呈式には、佐藤さんが生徒会長の溝部教証君に目録とみかん(サンテナ4箱)を渡しました。

佐藤さんは「みかん栽培を始めて60年。半分の30年を地元の小中学生に食べてもらえることを幸せに思います。お礼の手紙もうれしい」と話しました。

1月11日 燃え上がる炎に 無病息災祈る

無病息災・家内安全・五穀豊穰などを願う「どんど焼き」が、JA安岐支所裏の河川敷で催されました。年男・年女の皆さんが山のように積まれた正月飾りやお札に火入れすると、炎がまたたく間に燃え上がり、訪れた皆さんから歓声があがりました。

また、突然現れた「さ吉くん」に、子どもたちの明るい笑顔が広がっていました。



1月12日 これぞニッポンのお正月 韓国の生徒も満喫

弥生のムラで行われた「七日正月」行事に約250人の家族連れが参加し、たこあげや羽根つきなどの伝統的な正月遊びを楽しみました。参加者には古代石窯料理講座生の皆さんから七草がゆと石窯ピザが振る舞われ、一年の健康を祈りながら食べていました。

また、この日は安岐中学生との交流のため来日していた韓国彦州中学校の生徒も訪れており、日本の正月行事を満喫していました。



1月15日 豆腐作りで園児も 保護者も笑顔の一日



竹田津幼稚園と竹田津保育所の園児とその保護者がお豆腐作りを体験しました。材料の大豆は、昨年6月に園児たちの手で植えられ10月に収穫しておいたもので、講師の永井英子さん(国見町千燈)がユーモアを交えながら手際よくお豆腐作りを進めていきました。

部屋の中にお豆腐の良い香りが漂い出すと、園児たちは鍋の中を覗き込み満面の笑顔。おからを使ったドーナツや豆乳とっしょに、出来たてのお豆腐をみんなでおいしくいただきました。



1月1日 各地で初日の出拝む おだやかなお正月

好天に恵まれた今年の元旦。市内各地で年越しや正月行事が行われました。

大分空港では早朝から送迎デッキを開放し、初日の出イベントが開催されました。空港利用者など大勢の見物客は、大分航空ターミナルの社員からあたたかいお茶のおもてなしを受け、初日の出を拝みました。

1月2日 豊後万歳で 家内安全・商売繁盛



くにさき豊後万歳保存会のみなさんによる「豊後初春寿万歳」が、国東町内で披露されました。保存会会長で舞手の有馬孝さん、平川和秀さんら4名が町内の家々や事業所、飲食店などを訪問し、独特な節回りで家内安全・商売繁盛を祈願しました。見学者には桜本宮社でお祓いを受けたお神酒が振る舞われました。

豊後万歳は国東半島が発祥の地といわれており、かつては正月の風物詩だったそうです。

ま ず の 話 題

「第8回国東半島書き初め大会」(国東半島あいルネサンス連盟主催)が武蔵中央公民館などで開催され、市内外の小中学生186人が参加しました。正しく美しい文字を書くことはもちろん、国東半島の文化や歴史を愛する子どもを育てるために開催しており、参加者のみなさんは張り詰めた空気の中、筆や鉛筆を走らせていました。

なお、優秀作品は次の場所で展示されます。(2月中旬以降：予定)

1月5日 初春の思いを込め 筆を運ぶ



- みんなかん 2月7日～19日
- 梅園の里 2月21日～3月9日
- 大分空港 3月11日～4月7日
- ペイグランド国東 4月8日～5月10日

12月25日 寒さに負けず田深っ子 ワッショイワッショイ!



国東町の田深子供会による子どもみこしが行われました。地元にある天満社のお祭りに合わせて行っている活動で、1～6年生52人と保護者が参加。年の瀬を迎えた田深地区に、寒さを吹き飛ばす元気な掛け声が響き渡りました。

